

有之現ニ大阪界ニ於ケル静岡、清水港ニ於ケル如キ專ラ
其地ノ便宜ニ供スル者ニテ官設ノ普及スヘキアツサルノミナ
ラス利害ノ關係モ亦幹線ニ比ニ無之ニ付如是支線ニ至テハ
人民ノ私設ニ委セラレ可然就テハ向後此類ノ出願アルニ當テハ
政府ニ於テ詳ニ其地ノ形狀及ヒ線路ノ位置ヲ稜日査シ以テ幹
支線ノ關係如何ヲ考察シ其起業果シテ要用ト認ルモノニ
シテ且幹線ノ計畫ニ障碍ヲ及ホサルノ支線タルニ在テハ之カ私
設ラ允可セシテ而シテ其施設ノ方法ノ如キハ其實況ニ依リ適宜
御詮議ノ事ニ御定メ相成度近來大阪静岡等既ニ出願ノ
向モ有之候間此段申白候也

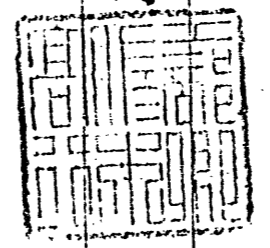


曩ニ本官工部省事務整理ノ事項ニ就テ開陳スル所アリ
シカ項者渡邊洪基工部少輔ノ任ヲ受ルニ當リテ其生平
ノ議論ニ參スルニ受任以來ノ見聞ヲ併セ以テ今復々別
冊ノ議案ヲ奉ツルニ錄リシナリ其擬議スル所ハ固リ本
官ノ同意スル所ナルノミナラス爾來本官カ擔任經理スル所
ノ事務一途此方向ヲ取ル此勢ヲ持續シ而シテ工部省ノ設
置アル以上ハ是ノ如キノ改正ナカル可ラサルハ理ノ當ニ然ル
可キ事ニシテ而シテ時機ハ既ニ到レリト確信ス況ヤ本省從來
ノ所管タル錢道ノ事業ヲ擴張スルノ氣運ニ際シ其關連

スル所日月多キヲ加ヘ燈臺ノ事亦大ニ官民ノ注意ヲ惹
キ鑛山營繕ノ諸課亦従前ノ精神ト異ナルニ至リ其他本
業縷述スル所ノ情勢アルニ於オヤ仰願クハ篤ク閣議
ヲ盡サレ采擇スル所ヲラン事ヲ謹言

明治十七年十月

工部卿佐々木高行



太政大臣三條實美殿

工部省職務整理之議

内閣大政ノ樞機ヲ統ヘ各省庶政ヲ分任ス而シテ其分任ノ科目
其趣向一ニ歸シ其間相關聯シテ牴牾ス可ラス是良政府ノ組
織機關ナリ故ニ内閣ノ大臣ヲ以テ兼テ各省ノ長官ニ任シ内
閣ニ入リテハ大政ノ方略ニ參與シ省ニ居リテ其擔任ノ政務
ヲ總制シ其實施ノ事務復々其寮局ニ分任シ以テ其成ヲ督ス
是ノ如ク其歸夫レ一トルモ各分任ノ政務自ラ混同スヘカラサル
類別アリ分業ノ道精シキヲ得配置ノ法宜シキヲ得レハ則チ
大政府ノ下各省ノ内業務ノ重複事緒ノ錯雜ナク秩序井然
行務流ル、カ如ク勞費節スル所アリ政事ノ効績ハ最モ大
ルヲ得ヘシ大政ヲ正當ニ分類スレハ概テ外交ノ事務ヲ外務
省ニ任シ軍防ノ事務ヲ海陸軍省ニ任シ司法ノ事務ヲ司法
省ニ任シ財政ヲ大藏省ニ任スルハ其最モ見易キ者ニシテ内務

省ニ内地行政ノ事務ヲ管理シ文部省ニ文學藝術ノ教育ヲ
管理シ農商務省ニ利用厚生ノ事ヲ管理スル各其當ヲ得ル
者ナリ而シテ工部省ハ管理スル所ノ者海陸運輸及田圃ノ
灌溉ト之ニ密接スルノ鑛山營繕ノ事務ヲ以テ至當トスル所
ナリ但郵便電信ノ事務ノ如ク意志ノ運輸交通ノ機關ハ各
國ノ例或ハ此兩務ヲ并セテ一省一院ト為ス者アリト雖モ要
スルニ其事業ノ進度如何ニ關スル者ニシテ本邦現時ノ實況
ニ照ラズキハ必ラズシモ分テ一省ト為スノ用ナシ唯其實際
關係スル所ノ多少ニ因リ苟クモ農商工ノ用ヲ以テ大ナリト
セハ農商務ニ屬スヘリ苟クモ内地政治上ノ關係大ナリトセ
ハ之ヲ内務ニ屬スルモ可ナリ是ノ如ク事務判然區分スヘキ
カ如クナルモ一モ相離レテ孤立獨行スヘキモノニ非ラズ事
業相通シ効用相兼ネ大改ノ樞機ニ合スルヲ要セザル可カ

ラス但其分任スルノ事務分合和ヲ得サレハ行務ニ支吾ヲ生
シ煩悶平ヲ失スレハ事周到ナラサルニ至ル是分業配置ノ方
法ニ於テ最モ慎マサル可カラサル所ナリ

工部省職務改正ノ事

維新ノ際主トシテ機械工藝ノ長ヲ西洋ニ取リテ以テ我短ヲ補
フノ急ヲ覺悟シテヨリ凡ソ造船鑛道電信鑛山造家ヨリ百般
ノ器機家具ニ至ルマテ西洋ニ模倣シテ以テ内地ニ之ヲ製造シ一
蹶以テ文明ノ觀ヲ裝ハント欲シ大ニ洋人ヲ聘シ内地ニ於ケルモ
苟クモ西洋法ノ學藝ニ通達スル者アレハ之ヲ集メ以テ官府
自ラ業務ヲ經營シテ以テ富國強兵ノ基ヲ建ントシ次テ其學ノ興
ガ、ル可カラサルヲ感シテ學校ヲ興シ兼テ其澤ヲ人民ニ及ホ
サ、ル可カラサル所以ヲ知リテ勸工ノ事業ヲ創起シ工部省ナ
ル者起レリ(西洋ニ「パブリック、ウオークス、デパルトメント」ナル

者ヲ取り之ニ支那ノ工部ナル文字ヲ付シタルナリ然レモ實
ハ官工局即ガブルノシタル、インジュストリーボードト稱スヘキ
者ニシテ名實相合サルナリ既ニシテ官府其費額ヲ計ラヌ
シテ事業ヲ為スノ費用多クシテ功績少キヲ知リ漸ク考
慮算勘ニ傾キ遂ニ營業ノ主義ニ推シ移ルニ至リテ益々損
失夥シク且負フ可カラサルノ責任ヲ後日ニ遺スヲアルヲ覺
リ當初開化ニ率先シ工藝ヲ勸奨スルノ主義全ク變化シテ
是モ政府ノ事業ニ非ラストシテ民業ニ移シ彼モ得失相償ハス
トシテ廢棄ニ付シ今日ニ至リテハ鑛道電信燈臺ノ三局工部大
學校ノ一校ヲ存シ營繕鑛山ノ如ク唯總務局中ノ一課トシテ殘喘
ヲ保ツノ形況ニ至レリ而シテ本省事務ヲ執ルノ精神ヲ熟視
スレハ事皆テ政務ノ大體ニ關スル海陸運輸漕漕等ニ至リテ具
方策ヲ定ムルニ任セス殊ニ政府所定ノ規模經畫ニヨリテ具工

藝ニ屬スル部分ヲ作營スルニ止リ方策ニ係ルノ事ニ至リテハ
偶々内閣ノ下問アリテ之ニ答辨スルヲアルモ凡百立法行政ニ
關シテハ一ニ政府ノ指令ヲ仰クノミ是レ豈内閣大臣ヲ以テ長
官ヲ兼ネ他ノ各省ト竝立シテ大政ノ主務ヲ統フルノ規模ニ合
フモノナランヤ既ニ上父ノ如ク漸次變革ヲ經テ稍事ノ錯雜支
離ヲ解ク者アルカ如キモ實ハ昔日工部省ヲ設立スルノ權宜ヲ
存留シテ其範圍ヲ短縮セシノミ依然其既ニ製作セシ者或ハ未
ク成ラサル者ヲ製作スル鑛道電信燈臺等ノ建築ト其運用ヲ
負擔スルニ過キス隨テ鑛山營繕ノ如キモ殆ント官府營作ノ事
業ヲ本務トスルカ如ク行政ニ關スル一般人民ノ事業ノ管理ヲ
後ニスルノ觀トキ能ハサルナリ而シテ其陸海運輸ノ主要タル
鑛道燈臺ノ事業經畫ノ方針ヲ營繕鑛山之ヲ管理スルノ規
模ヲ工學ノ校又其歸着スル所ヲ明ニセス恰モ事業ニ精神

十ク開接ナク支離錯雜セル事業ノ集合シタル者ヲ苟クモ
處辨スルノミ是ノ如キノ事務ニシテ官負ハ所轄ノ諸局ヲ除
キテ殆ント二百名定額殆ント五拾万圓ヲ費ス大政府ノ一省
ヲ要センヤ寧ロ工部ノ一省ヲ廢シテ鑛道燈臺ノ二局民工鑛
山管理ノ事務ヲ土木ト共ニ内務省ニ屬シ官工ノ鑛山及ヒ營
繕ハ之ヲ大藏省ニ屬シ工部大學校ノ如キハ勸工ノ一部分トシ
テ之ヲ農商務省ニ屬スルノ簡約ナルニ加カサルナリ電信ノ如
キハ前項既ニ之ヲ論ゼリ是ノ如クニシテ配置ノ法ハ其當ヲ得
事務ノ連絡宜キヲ得タリト云ヘシ然雖一省管理スル事務ニ各分量
リテ越エル能ハス是ノ如キハ分業ノ道ニ於テ未タ其當ヲ
得タリト云フ可ララス内務ハ府縣ノ行政ヲ統括スルノ外地
積民口ヲ整頓シ非違ヲ檢察シ宗教ヲ管理シ衛生ヲ統ヘ兼
テ因徒ヲ警戒ス概シテ之ヲ言ハハ民政上ノ事務皆之ニ屬シ

其事務タル日月煩ヲ加ヘ加之府縣會既ニ起リ國會將ニ
起ラントス改權ノ範圍愈廣大トナルニ際シ之ヲ統御シテ
以テ國家ノ治安ヲ維持スルノ責實ニ重ク且煩ナリ以テ道路
橋梁河渠港灣鑛道燈臺ノ如キ一ノ專門學術ヲ以テスハキ
全ク種類ヲ異ニスル者ヲ管理スルノ暇アラレマ大藏省ノ營
繕及ヒ官工鑛山ヲ管理スルカ如キ亦タ財政ノ事務是日ニ足
ラス全ク異種類ノ事務ヲ為スニ堪ヘンヤ工部大學校ノ如キ
ハ方今開明ノ各國尚且其缺ク可カラサルヲ稱ス况ニ新々
ニ他方ノ工藝ヲ實用セントスルノ國ニ於テオヤ此學タル普
通ノ文學ニ異ニシテ務メテ學事ト實業ト相近接セシメ常ニ之ヲ
實用スルノ意想ヲ養成セサル可カラス農商務省ハ人民ノ工藝
ヲ保護スル者ニシテ是等學校ニ於テ學テ得タルノ事業ヲ實
行スルノ省ニ非ラス然ラハ則チ特リ學業ノ為メニ損害アル

ノミナラス其管掌ノ省ニ於テモ亦ク其常務ト異テ農商
工務山林等ノ諸務ノ外又之ヲ管理スルノ餘地ナカレハキナリ
然ラハ則チ是等ノ諸件ヲ合シテ一省ヲ置キ内閣大臣ヲ以テ
之ヲ統ヘシムルノ最モ至當ニシテ最モ至便ナル自ラ明ナル
者ニシテ苟シクモ文明ノ諸國分ツテ工部省ヲ置ク所ナリ
本邦モ亦此分業配置ノ法ニ於テ最當ヲ得タル者ニ則テサ
ルヲ得ンヤ然ラハ則チ本省從來ノ精神ヲ一變シテ純然タル
政治ニ關スル一省トシテ方今内務省ニ管掌スル土木ヲ并マ
電信ヲ以テ郵便ニ合セテ内務若クハ農商務ノ所管トシ本
省ノ事務ヲ分ツテ第一道路橋梁第二川溝灌溉第三海港燈
臺第四鐵道第五鑛山第六營繕ノ諸局トシ付スルニ工部大
學校ヲ以テシテ其規模ヲ完備セラシムヘシ而シテ其各務
ニ就テ其方向ヲ定メ之カ改良ヲ謀ラサル可カラサルナリ

第一 海陸運輸及灌溉ノ事

道路橋梁鑛道溝渠河川港灣海路各々其用アリ歐洲各國ノ如
キハ皆チ全備セラル者ナキモ自ラ相俟テ全國ノ用ヲ為シ相
連關シテ一モ之ヲ分離スル能ハス況ニヤ本邦ノ如キ富未ク
歐洲大國ノ比ニアラス工藝尚未ク至ルヘキノ域ニ進マズ而シ
テ海路ノ便亦ク大ニ助クル所アリ之ニ依ラサル可ラス故ニ是
等ノ諸利ヲ通觀シテ平時戰時ノ要需ト民力ノ適度ヲ計リ
其利ヲ兼テ用ヒテ始メテ其目的タル運輸交通ヲ全クスルヲ
得ヘリ又本邦土木ノ堤防溝渠河川ニ於ケル皆チ田畝ノ灌溉
其主旨ニ屬シ運輸ノ利ト并ニ考ヘ輕重偏倚スル所アル可ク
ラス然ルニ河川堤防道路橋梁溝渠港灣砂防繫船場ノ土木ハ
内務省ニ屬シ鑛道燈臺造船等ハ之ヲ工部省ニ屬ス而シテ天
下ノ土木則チ内務省ノ管理ニ歸スル者舉テ府縣會議ノ定

ムル所ト地方官ノ意匠ニ任ス故ニ各省分任ノ事業ハ自ラ其
 目的方向ヲ統一セス府縣ノ事業ハ其各地方ノ利害得失ニ
 尙促シテ各地具進退ヲ異ニシ殆ント全國ノ脉絡トモ稱ス
 ヘキ運輸灌溉ノ道ニ於テ支離解体スルヲ致スニ至ル或ハ一概
 ニ道路短直ナルノ便ニ熱心シテ數十里無人ノ郷ニ大道ヲ架
 シ行人ノ過ルヲクシテ修繕到ラス後ニ荒廢ニ委シ遂ニ廢ラ
 舊道ニ及スモノアリ或ハ未ク其用ヲ見サルノ地ニ廣大ノ道路
 ヲ開キ半ハ草莽ニ掩ハル、アリ或ハ河川堤防ノ如キ永久ヲ以
 テ保持スヘキモノ遂ニ其大破ニ任スル者アリ或ハ一縣ハ道路
 橋梁ニ熱心シテ其縣ニ入レハ坦砥ノ如キ大道縱横ニ通貫スル
 モ隣縣ニ至レハ忽チ道路梗塞スルアリ或ハ其新利ノ費用
 ニ對スル損益ヲ計算セス其他工事ノ關係ヲ辨セスシテ漫ニ
 大工事ヲ企ツル者アリ或ハ一地方ニ大事業ヲ起シテ他地方

其澤ヲ被ラズ事業水泡ニ歸スル者アリ或ハ鐵道ノ線路ト方
 向ヲ同フシテ一大新道ヲ穿ツアリ築港ノ議論甚ク熱シテ燈
 臺ノ之ニ伴ハサル者アリ是ノ如ク各地具趣ヲ異ニスルノミナ
 ラス各所ニ事業ヲ興スヲ以テ之ヲ提理スル具官吏ナク之ヲ
 實行スルニ其工手ナク學術ヲ參ビス經驗ヲ用ヒス或ハ有
 限ノ聞見ニ依リ淺薄ノ學識ヲ頼ミテ不相應ノ大事業ヲ興
 スモノアルヲ致ス而シテ年々國家之ニ要スル所ノ費額ノ巨大ナル
 明治十三年度ノ統計ニ因ルニ河川港灣汐除溝渠道路橋梁ニ
 費ス所國庫ヨリ出ス者貳百貳拾八萬圓弱地方稅及悗議費ヲ
 合セテ六百五拾萬圓錢道燈臺ニ費ス所無慮四拾萬圓之ニ工
 部省ノ費額五拾餘萬圓此他各地方ニアリテハ所謂有志者ノ
 捐金供役亦少ナカラス金額ノミヲ概算スルニ一千餘萬圓ニ
 下ラス尔後土木ヲ民費ニ屬スルニ年々此巨額ヲ費用ス之ヲ

我人民ノ實力及國家ノ歲入ニ對稱スルハ殆ント各國ニ比類ヲ見サルノ費用ト云フヘシ而シテ彼協議費ナル者ニ制限ナキヲ以テ各地區々ニ其規模ヲ經畫シ之ヲ徵收シ民力既ニ竭キテ事業未ク半ニ達セザル者アリラントス要スルニ倫理連絡セズ費用ハ苛重ニシテ實用ハ却テ僅少ナルヲ致ス是レ政治上ノ分業配置其宜シキヲ得ズ制度上事業ノ統一ヲ缺クノ致ス所ナリ抑鐵路ハ必要缺ク可カラザルモ費用最モ多ク且之ト相連絡セル道路橋梁アリテ相助ケザル可カラズ之ヲ海路連接スルニ港灣ノ修築ナカル可カラズ又海ニ舟楫ノ便ヲ開キ港灣ヲ築キ燈臺ヲ設ケルハ陸ニ道路ヲ開キ道ヲ通スルニ同シク巨大ノ汽船ヲ運轉シ當時運輸ノ利ヲ全フセシニハ其危險モ亦端艇小舟ノ比ニ非ラス故ニ要所燈臺ヲ設ケテ其目標ヲ示シ港灣ヲ浚築シテ其陸路ト連絡ヲ通ス河川溝渠ハ運輸ニ於ケル

海陸兩路ノ間ニ在リテ實ニ天賦ノ便道トス之ヲ利スルハ此兩路ヲ理スルニ異ラテス然ルニ本邦ノ河川溝渠ハ自ラ其用ヲ運輸ニ專ラニスルヲ得ザルノミナラス却テ其大用ヲ田畝ノ灌溉ニ供ケル者ニシテ從前ノ土木ハ殆ント灌溉防溢ニ專ラニシタル者ト云フヘシ然リ而シテ灌溉防溢ノ水利ト運輸ノ水利ト大ニ其趣ヲ反スル者アリ故ニ土木ノ事ハ錢道道路河川溝渠港灣燈臺造船ト相俟テ相助ケテ以テ其倫理ヲ連絡シテ國家ノ體ヲ為スヘク而シテ錢道道路河川溝渠港灣ノ灌溉防溢ト相戾ルヲ得ズ是レ即チ此事業ヲ統轄シテ一所ニ管理セサル可カラザル所以ナリ而シテ其事業ニ至リテハ特ニ全國ノ利害ニ關スル者アリ國費ヲ以テ之ヲ為サ、ル可カラズ一國ト一地方ト其利害ヲ分ツ者アリ其費用ハ國庫ト地方ト分擔セサル可カラズ或ハ一區ノ地ト一地方ト利害相兼スル

者アリ其地方ト其一區ノ地方ト費用ヲ分擔セリル可カラ
 カル者アリ或ハ其一地方一區地ニ限ルノ利害ハ之ニ費用ヲ
 負擔セシムヘク灌漑防溢ノ事業ニ於テハ直接其利ヲ受ケル
 ノ人民ニ其費用ヲ課スルモ尚可ナル者アリ是等皆其實際
 ニ就テ調和宜シキヲ要スル者トス然レモ其一所ノ土功ヲ
 怠リ若クハ誤ルカ為メニ害ヲ起シ若クハ利ヲ塞キ一利ハ
 一害ノ為メニ破ラレ其効用ヲ失フニ至ルヲ屢ナリ故ニ是等
 ノ土功其利害ノ及フ所ノ區域ハ各別ナルモ其倫理ハ連關シ
 之ヲ統一スルノ基礎ナカル可ラズ故ニ土木ノ事業ニ在リテ
 ハ小大盡ク其主務ノ中央政府ニ就テ其考案ヲ仰キ其認可
 ヲ得ヘク又政府ニ於テモ專ラ公平ヲ主トシ苟クモ故ラニ
 某地ニ幸シ故ラニ某地ノ事業ヲ怠リ以テ知ラカルノ間ニ
 偏私ニ陷ル無カルヘク或ハ一地方ノ代議者若クハ新聞ノ

褒貶毀譽ヲ以テ直ニ輿論トナシ一地方ノ民カラ勞ラヌ
 ク一國政治ノ體裁ヲ得テ費節スル所アリ用ハ益廣カラシ
 ヲ要スヘシ但道路橋梁及灌漑防溢ノ土功ノ如キ之ヲ建
 設シ及保持スルノ費用ヲ徵收スル方法ノ如キハ各地ノ慣
 習法規アリ皆テ内務ノ與ル所本省ノ管スル所ニテ且道
 路橋梁鐵路港灣燈臺等其規模ヲ定メ利害ヲ判スル特リ主
 務者ノ任ノミナラス内務農商務ニ關スル者アリ海陸軍ニ
 關スル者アリ財政ニ至リテハ大藏ニ關スルアリ別ニ評議會
 ヲ開キテ之ヲ論評スヘキナリ

第二 鑛山ノ事

鑛山ノ事業ハ農商務省ノ所轄ニ屬スル工業ノ如キモ之ヲ土木
 ヲ管理スルノ省ニ屬スルハ工事ノ趣向全ク運輸開鑿ニ專ラニ
 シテ土木ノ業ト密接シ而シテ利害相關係スル所道路橋梁ヨ

リ河川溝渠等ニ在リテ一ハ運輸ニ屬シ一ハ灌溉ニ在レハナリ
宜シク鑛山ノ探索ト民業ノ保護ヲ眼目トシ坑法ニ因リテ其
弊害ヲ防止スルニ在リ而シテ官工ニ屬スル者モ民工ト同シク
之ヲ監督スヘキナリ

第三 營繕ノ事

營繕ノ事業タル維新以來會計官ニ總ヘ次テ民政中ノ土木ニ
合シ遂ニ此事タル唯ニ洋法ノ建築術ニ與ルモノトシテ本省ノ
製作寮ニ合シ又之ヲ分ツテ局ヲ置キ現今本省總務局中ノ
一課トナス此間各廳便宜起工スルノ漸ヲ為シ營繕ノ事タル
分離滅裂シテ統裁スル所ナク各廳亦營繕課アリテ各其所見
ヲ以テ工事ノ實務ヲ行フノ結果ヲ為セリ夫建築ノ事タル一
科ノ専門學術ニシテ工學中別ニ造家學ノ一科ヲ設ク然リ
而シテ特リ學問ノミヲ以テ足ルモノニ非ス數多ノ經驗ヲ要ス

ルハ歐洲ニ在リテ歐洲ノ建築術ヲ為ス尚イ然リ況ンヤ本邦ノ
如キ東西相隔リ風土大ニ異ニ政俗相遠キノ所ニ於テ其學術
ノ精ヲ撰ミ其法ヲ採用シテ之ヲ實地ニ施スニ於テキヤ唯漫
ニ外觀ヲ模倣シテ一朝之ヲ擬ス危險モ亦極レリト云フヘシ本
邦維新以來洋法若クハ半洋法ノ建築ヲ為スニ於テ其例枚舉
ニ暇アテス持リ本邦ノミナラス英人ノ印度ニ施セル建築其失
敗歴々書ニ載ス此弊ヲ防カントスル學術ト實地ノ經驗トヲ利
用スルニ在リ之ヲ為スニハ務メテ其人ヲ撰ミテ之ヲ集メ事
業モ亦此ニ集メ政府及人民一体ヲ通觀シテ過ヲ復セス却テ
之ヲ用ヒテ改良スルヲ務ムルヲ要ス故ニ英佛ノ如キ工手學
士其人ニ乏シカラサルニ尚此事業ヲ管理スル英ニハ工部局アリ
佛ニハ工部省中堂宇家屋宮殿局アリテ皇居宮殿官廳ノ建
築ハ之カ計畫監督ヲ為スヲ主務トシ併セテ人民ノ委託ヲ受

ケテ之ヲ為シ又建築條例ニ據リテ官民家屋ノ構造ヲ制限
 シ火災ヲ豫防シ検査官ヲ置キテ之ヲ監察セシム故ニ官民家
 屋ノ制皆統一スル所アリテ學術經驗ニ集成スル所アリテ自
 カラ國家ノ安寧鞏固ヲ助ク本邦亦豈此事ヲ缺キテ可ナラ
 シヤ本省ノ事務土木ヲ弁スル氏ハ其事業相類似シ加フルニ
 營繕ニ後事スルノ年既ニ久シク煉瓦ノ家屋ヲ新築スル者
 通計四拾七箇所經費貳百有餘万圓木造ノ新築百有餘箇アリ
 經驗ヲ重キテ發明スル所少ナカラス學術ニ至リテハ工部大學
 校養成スル所ノ造家學士陸續輩出スルアリ以テ各其職ニ就
 カシムヘク其術ノ進歩ヲ謀ルニ海外ヨリ聘スル所ノ老練ノ造
 家師ヲ以テセハ上下未ク英佛ノ如キノ全キヲ得ルノ運ニ至ラ
 サルモ希クハ官民造家ノ計畫監督ヲ統括シテ以テ冗費ヲ省
 キ經濟ヲ致シ公私ヲ利シテ富強ヲ助クルノ目的ヲ達スルヲ得

シ現ニ宮内省所轄ノ有栖川北白川ノ兩宮及大學三學部ノ建
 築功ヲ竣ラントシ而シテ皇居御造營ノ事務アリ頃日將リニ諸
 官廨ヲ日比谷操練場裏ニ築カントスト宜シク先ツ是等ノ事
 業ヲ此營繕局ニ掌管セシム其他官衙ノ營繕ヲ之ニ統ヘ加フ
 ルニ現時行フ所ノ委託ニ應シテ其計畫監督ヲ為スノヲ以
 テシ遂ニ政府建築條例ヲ設クルノ時運ニ至ラハ一般家屋
 ノ構造ヲ監督シ市井ヲ改正シ建築ヲ改良スルノ任ニ當ラシム
 ヘキナリ然レバ此營繕部ナル者ハ公私ノ宮殿家屋唯其構造
 ノ實業ヲ掌管スル者ニシテ其規模ニ至リテハ即チ當局者ノ
 意ニ應スヘキ者ナルカ故ニ皇居宮殿ハ固ヨリ諸官衙ノ建築
 ニ至ルマテ皆チ規模ヲ經畫シ之ヲ主張スルノ主務委負ヲ
 要スルハ論ヲ俟タズ以テ規模ト工事ト調和宜シキヲ得ヘキ
 ナリ

第四 工部大學校ノ事

工部大學校或云之ヲ教育ノ一部トシテ文部ニ屬スヘシト現
 今ノ如キ大學三學部現今ノ如キ工部大學校ヲシメハ或ハ
 然ラシ然レモ分業配置ノ法ヲ精ニシ其方向ノ相同シキ者
 ヲ以テ一類トシ之ヲ管理センニハ大學ヲ管理スル者ト自ラ
 差別ナカル可ラス今ヤ日新ノ事業益進マカル可ラサルノ時勢遭
 遇ス之當應キ學士ヲ產出セサル可カラズ官民ノ此道ニ勉ム是
 日モ足ラサルノ感アリ其政法ヲ論シ理科ヲ究メ文藝ヲ講シ醫
 學ヲ習フ固リ須要缺ク可カラサルモ理化ノ學理ヲ實用シテ
 以テ直ニ國家物質上ノ隆盛ヲ謀ルモノ現今更ニ緊急ナリト
 云ハサルヲ得ス大學ハ則チ學理ノ蘊奧ヲ極メ其學理ノ用ヲ
 擴張シ以テ社會ニ益スル者ナリ其學理ノ成ヲ仰キ各業ノ專
 門ニ就キテ之ヲ適用シ無ネテ實業ニ從事スルノ志想ヲ養成

シ直ニ取リテ國家ノ經濟ヲ利スルニハ別ニ其學校ヲ設ケル
 可カラズ工部大學校其一ナリ故ニ歐洲各國此學ヲラサルナリ土
 木學機械工學造船學電氣工學造家學製造化學鑛山學冶金學
 皆之ヲ實際ニ用ヒ以テ直ニ國家ノ經濟殊ニ政府本分ノ事業
 ニ於テハ通常土木ノ事及鑛道燈臺等アリ鑛山造家造船及機關
 ノ如キ政府之ヲ保護監督スルノ務アリ是等ノ事ニ從ハシムルモノヲ
 養成スル此設置實ニ缺ク可カラズ況ンヤ海陸軍擴張ノ際現時海陸
 軍ノ機器大ニ進シテ工學上最高妙ノモノヲ用ユルニ至リ船舶兵
 器ヨリ築城運輸通信光射ニ至ルマテ皆此學ノ蘊奧ヲ極ムルニ非
 カレハ其精ナルヲ得ス然ルニ海陸西軍各士官學校ノ設ケアリテ三
 兵ノ各科ニ從事セシムルモ他ノ各國ト均ク是等工學ノ製產物
 ヲ運用スルノ學術ヲ講習スルノニ其原材ニ至リテハ或ハ直ニ外
 國ニ仰クカ或ハ數年ノ經驗ト不備ノ學識ヲ有スル者ノ工夫

ヲ以テ其物品ニ模擬スルノミ否ラサレハ人ヲ外國ニ遣リテ其
 兵事工學ヲ修セシムルノミ是ノ如クニシテ本邦兵備ニ於テ苟ク
 モ獨立不羈ヲ保テ以テ兵備ヲ擴張スルヲ得ン今本校ノ組織
 ヲ僅々改正スルヲ得ハ其目的ヲ達スル難事ニ非ルナリ抑兵
 事ニ用ユル工學ト云フモ其原理ニ至リテハ一モ異ナル者ナク
 築城ノ如キハ土木ニ屬シ銃砲ヲ鑄鍊スルハ冶金若クハ機械工
 學ニ屬シ砲車其他ノ器械ニ屬シ火藥製造ハ化學ニ屬シ其他
 造船鑛路電工其學術ニ至リテハ皆相異ナルナシ唯其適用スルノ
 目的大ニ異ナルヲ以テ之ニ應ジテ取舍スハキノミ佛蘭西獨逸埃
 地利ノ工藝學校エコールポリテクニクニ於ケルカ如ク學術ノ程度ヲ高尚
 ニシ其實用ノ地ニ密接セシメ學術ト實地ト共ニ進メテ遂ニ本
 邦學術上獨立ノ基礎ヲ建ツヘク以テ海陸軍擴張ノ盛意ニ副
 フヲ得ヘシ從來本校ノ組織タル本省従前ノ組織ト其精神

ヲ一ニシ工藝ニ屬スル專門學校ノ如ク官民一般ニ用ユル工藝家
 ヲ速成スルカ如クモノアリ然レモ本邦歐洲ノ文化ヲ受クル日尚
 淺ク民業ニ屬スル學術ノ應用未タ其度ニ適マサルヲ以テ是
 等高尚ノ學術未タ幼稚ノ民業ニ用ユルヲ以テ目的ト為スラ
 得ヌ加フルニ近頃文部省建設スル所ノ職工學校アリ宜シク
 此事ヲ彼ニ讓ルヘシ而シテ本校ハ宜シク官工ニ屬スル土木鑛道
 電信燈臺造船造兵及ニ鑛山ノ監督獎勵并ニ蒸氣機械ヲ用ユル
 者ノ監督獎勵ノ官用ニ當テ兼テ其專門學術ノ滋養ヲ極ムル
 ヲ以テ目的トシ恰モ海陸軍ノ士官生徒ヲ養テ其用ニ供スルカ如ク
 シ平時若クハ人負幾分ノ餘裕ヲ以テ民用ニ供スルヲ以テ尚餘リ
 アリトス本校ノ組織是ノ如シ上文已ニ論スル如ク其實業ニ密
 接スルヲ可トス故ニ土木鑛道燈臺造船ヲ直轄シ兼テ鑛山蒸
 氣器械ヲ監督獎勵シ且民業ニ近接スル工部ニ屬スルヲ以テ至

便トスル所以ナリ而シテ陸海兩軍ニ關スル學事方向ノ如キハ
當該ノ官負ト商議諮詢シ其趣意ニ戻ラケルヲ期スヘキナ
リ
以上工部省ノ事務ヲ整理スルノ大綱ナリ其條目ノ如キハ綱領先
ツ定リ然ル後之ヲ組織シ以テ高裁ヲ仰クヘキナリ蓋シ立案ノ趣
意本邦數年ノ經歷ニ徴シ文明各國ノ採用スル方法ヲ斟酌シ務
メテ治務ノ重複ヲ防キ無用ノ費ヲ省キ有用ノ事ヲ益セントス
ルニ在リ仰キ願クハ明裁アラントテ恐悚ノ至ニ堪ヘス

明治十七年十月

工部少輔渡邊洪基

太政大臣公爵三條實美閣下

工甲一一六號

秘

明治十七年十月廿二日

大臣

内閣書記官

工部卿建議工部省事務
整理之事
右田覽ニ供ス

參議

山縣	大木
西郷	伊藤
山岡	井上
大木	松本
福	川村
	佐木

便トスル所以ナリ而シテ陸海兩軍ニ關スル學事方向ノ如キハ
當該ノ官負ト商議諮詢シ其趣意ニ戻ラサルヲ期スヘキナ
リ
以上工部省ノ事務ヲ整理スルノ大綱ナリ其條目ノ如キハ綱領先
ツ定リ然ル後之ヲ組織シ以テ高裁ヲ仰クヘキナリ蓋シ立案ノ趣
意本邦數年ノ經歷ニ徴シ文明各國ノ採用スル方法ヲ斟酌シ務
メテ治務ノ重複ヲ防キ無用ノ費ヲ省キ有用ノ事ヲ益セントス
ルニ在リ仰キ願クハ明裁アラントテ恐悚ノ至ニ堪ヘス

明治十七年十月

工部少輔渡邊洪基

太政大臣公爵三條實美閣下

秘

工

本件ハ特ニ所評議
之ニ付未占^秘務^秘當^秘之^秘事
十月十四日

第百拾號

中山道鐵道建築著手其他之義井上鐵道
局長ヨリ意見具狀ニ付伺

中山道鐵道幹線工事之儀ニ付テハ既ニ御決定
相成追々準備計畫可致筈ニ候處今般井上鐵
道局長ヨリ高崎ト同時ニ越後直江津ヨリ布設及
ヒ直江津港修築等之儀別紙之通意見書提
出候ニ付篤ト査閱候處其云フ所一々肯綮ニ中リ
實ニ國家經綸ノ要ヲ得タルモノト被存候間更ニ
被盡閣議右意見之通御裁決相成候様致
度此段相伺候也

明治十七年十月廿二日

工部卿山縣有朋